

H17・春

問題1 パーマネントウェーピングに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 根元から毛先まで均一なウェーブを求めるために、ステムの角度はストランドの中心が90度になるようにして、スライス幅内に巻きおさめる。
- ② スライスは、ロッドの直径にあわせて決めるが、頭部の位置や毛髪の長さ、毛量、毛質にあわせ調節する。
- ③ フルウェーブは、使用するロッドの3回転分の毛髪の長さが必要である。
- ④ テストカールの目的は、使用したロッドの2.5倍のカール径の反応が適正に完了したことを確認するものである。

H17・夏

問題2 パーマネントウェーブ用剤に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 2浴式コールドウェーブの第1剤（1液）は、還元作用をもつチオグリコール酸またはその塩類にアルカリ剤を加えた溶液が主である。
- ② システインパーマネントウェーブは、2浴式コールドウェーブの第1剤（1液）の主剤であるチオグリコール酸またはその塩類のかわりに還元剤としてシステインを用いている。
- ③ 加温式パーマネントウェーブは、チオグリコール酸系とシステイン系の2浴式がある。
- ④ 1浴式コールドウェーブは、チオグリコール酸またはその塩類の濃度やアルカリ剤の量を高レベルに設定してある他は2浴式とは変わらない。

H18・春

問題3 パーマネントウェーブに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 施術前のシャンプー剤は、酸性やアルカリ性の非中性タイプを用いる。
- ② ワインディングで根元から毛先まで均一なウェーブを求めるためには、スライス幅内に巻きおさめるとよい。
- ③ 薬液使用時のワインディングでは、パーマネントウェーブのかかりにくい部分から巻き始める。
- ④ テストカールの目的は、求めるウェーブのかかり具合を確認するものである。

H18・夏

問題4 パーマネントウェーブに関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① 加温式パーマネントウェーブは、60℃以下の熱で作用を促進することによりパーマネントウェーブをかける。
- ② システインパーマネントウェーブは、第1剤（1液）の主剤として還元作用が強いシステインを用いている。
- ③ 2浴式コールドウェーブは、第2剤（2液）の主剤に酸化作用のあるチオグリコール酸を用いている。
- ④ 第1剤（1液）用時調製発熱2浴式パーマネントウェーブ第1剤（1液）のチオグリコール酸は、低濃度であるため単独で毛髪に塗布しても問題ない。

H19・春

問題5 パーマネントウェーブにおいて、直径12mmのロッドを使用してフルウェーブを作る場合、最も適した毛髪の長さは次のうちどれか。

- ① 5.7cm
- ② 6.6cm
- ③ 9.4cm
- ④ 11.3cm

H19・夏

問題6 パーマネントウェーブ用剤に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① コールド2浴式の製品は、スチーマーや赤外線等で加熱しても使用できる。
- ② 加温2浴式の製品による仕上がりは、加温時間と作用時間の長さに関係しない。
- ③ 皮膚が過敏な人には、保護クリームを使用し、パーマネントウェーブ用剤が直接皮膚につかないようにする。
- ④ パーマネントウェーブ用剤は、必要があれば他の化粧品と混合したりすることができる。

H20・春

問題7 パーマネントウェーブ技術におけるテストカールでみる適正カールに関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① 使用したロッドの直径の3倍以上のカール径を目安とする。
- ② 使用したロッドの直径の2.5倍のカール径を目安とする。
- ③ 使用したロッドの直径の2倍のカール径を目安とする。
- ④ 使用したロッドの直径の2倍未満のカール径を目安とする。

H20・夏

問題8 パーマネントウェーブに関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① 吸水性毛は、水分の吸収はよいが、薬液をはじきパーマがかかりにくい。
- ② 求めるウェーブ幅の大小は、ロッドの太さに関係しない。
- ③ つけ巻きとは、カラーリングや残存ウェーブのあるところに状況に応じてトリートメントを塗布することである。
- ④ ワインディングは、作業効率を考えたかかりにくい部分から巻きはじめる。

H21・春

問題9 毛髪の組織結合に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① ポリペプチド結合は毛髪の繊維を形成するアミノ酸の結合である。
- ② シスチン結合は、チオグリコール酸などの還元剤では切断されない結合である。
- ③ 塩結合は、アミノ基とカルボキシル基によるイオンの結合である。
- ④ 水素結合は、水分により切断され、乾燥することにより結合する。

H21・夏

問題10 パーマネントウェーブ施術でフルウェーブを形成するために必要なロッドの回転数は、次のうちどれか。

- ① 1. 5回転
- ② 2回転
- ③ 2. 5回転
- ④ 3回転

H22・春

問題11 パーマネントウェーブに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① ワインディングでは、パーマネントウェーブのかかりにくい部分から巻きはじめる。
- ② 形成されるフルウェーブは、使用するロッドの3回転分の毛髪の長さが必要である。
- ③ ロッドをベース内に巻きおさめるためには、ステムの中心の角度を90度にする。
- ④ テストカールは、第1剤（1液）がどの程度毛髪に作用しているか調べるために行う。

H22・夏

問題12 2浴式コールドウェーブに関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① 第1剤（1液）の主成分であるアルカリ剤は、毛髪を膨潤させる。
- ② 第1剤（1液）の酸化剤により、シスチン結合を切断する。
- ③ 第1剤（1液）の主成分には、臭素酸塩や過酸化水素が用いられる。
- ④ 第2剤（2液）の還元剤として、システインが用いられる。

H23・春

問題13 パーマネントウェーブに関する次の文章のうち（ ）内に入る語句の組み合わせのうち、正しいものはどれか。
『ウェーブの大小は、（ A ）の（ B ）によって決定され、パーマネントウェーブ用剤で形成されるフルウェーブは使用するロッドの（ C ）回転分の毛髪の長さが必要である。』

- | | A | B | C |
|---|-------|----|------|
| ① | 放置時間 | 長さ | 3 |
| ② | スライス幅 | 厚さ | 2. 5 |
| ③ | ロッド | 太さ | 3 |
| ④ | テンション | 強さ | 2. 5 |

H23・夏

問題 1 4 パーマネントウェーブに関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① 施術前に使用するシャンプー剤は、オイル分の多いものは適さない。
- ② 施術前の毛髪診断は、シャンプー前に一度だけ行えばよい。
- ③ 撥水性毛は、吸水性毛と比べて薬液の吸収は悪いが、パーマネントウェーブのかかりはよい。
- ④ ワインディングをするためのテンションは、パーマネントウェーブのかかり方に影響しない。

H24・春

問題 1 5 パーマネントウェーブに関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① 施術前の毛髪診断は、ドライヘアの状態で行う。
- ② 施術前のシャンプーは、アルカリ性タイプが適している。
- ③ はっ水性毛は、薬剤を吸収し、パーマがかかりやすい。
- ④ パーマネントウェーブは、2浴式コールドタイプが多く用いられている。

H24・夏

問題 1 6 縮毛矯正に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 毛髪をパネルなどに貼り付けてコーミングすると効果が高い。
 - b 縮毛矯正剤には、高温整髪用アイロンを使用するものもある。
 - c コーミングの際、必要以上にテンションを加えると断毛の原因となる。
 - d 根元の部分から第1剤（1液）を塗布し、根元からウェーブやくせ毛、ちぢれ毛をのばす。
- ① aとb ② bとc ③ cとd ④ aとd

H25・春

問題 1 7 パーマネントウェーブにおけるアフターリンスの目的に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 酸化によりシスチンの再結合を促し、結合をより完全なものにする。
- ② 施術中に脱脂した油分をヘアトリートメント剤で補う。
- ③ アルカリ性になっている毛髪を酸性リンスでもとの健康な毛髪に戻す。
- ④ アルカリ分を中和し、膨潤した毛髪を収れんさせる。

H25・夏

問題 1 8 パーマネントウェーブに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 毛髪の大部分は、ケラチンとよばれるタンパク質からできている。
- ② アンモニアは、アルカリ剤として用いられている。
- ③ システインは、還元剤として用いられている。
- ④ チオグリコール酸は、酸化剤として用いられている。

H26・春

問題 1 9 パーマネントウェーブ用剤の主成分とはたらきに関する次の組合せのうち、誤っているものはどれか。

- ① 還元剤 —— シスチン結合を切断し、毛髪に可塑性を与える。
- ② 還元剤 —— 毛髪を膨潤させ、パーマ剤の浸透を促す。
- ③ アルカリ剤 — 還元を促進する。
- ④ 酸化剤 —— 酸素を与えることにより、シスチンの再結合を促す。

H26・夏

問題 2 0 パーマネントウェーブに関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① 施術の前の毛髪診断は、パーマネントウェーブの残存状態がよく分かるシャンプー前のドライヘアで判断する。
- ② 吸水性毛は、水分は吸収するが、薬液をはじくのでパーマネントウェーブがかかりにくい。
- ③ ワインディングは、作業効率を考慮して、パーマネントウェーブのかかりにくい部分から巻き始める。
- ④ カラーリングや残存ウェーブがあり、かかりすぎるおそれのある毛髪には、あらかじめ第1剤（1液）を塗布し、薬液の作用をセーブする。

H27・春

問題 2 1 パーマネントウェーブ技術に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① テストカールで見ると適正カールは、カール径が使用したロッドの直径の約1.5倍を基本とする。
- ② 中間リンスは、第2剤（2液）を完全に洗い流し、アフターリンスのはたらきを効果的にする。
- ③ ワインディングのロッドを巻き込むステムの角度が頭皮に対して90度のとき、最もボリュームが出る。
- ④ アフターリンスでは、施術中に脱脂した油分をヘアトリートメント剤で補う。

H27・夏

問題 2 2 パーマネントウェーブ技術のテストカールに関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① テストカールは、第2剤（2液）がどの程度毛髪に作用しているかを調べる。
- ② ウェーブの大小は、テンションや放置タイムの長短、使用する薬液によって決まる。
- ③ オーバータイムの場合は、カール径がロッドの2.5倍以下となり、毛髪は弾力性を失う。
- ④ 水巻きの場合は、パーマがかかりやすいのでテストカールを行う必要がない

H28・春

問題 2 3 パーマネントウェーブに関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① 毛先は根元に比べパーマがかかりにくい。
- ② かかりにくいおそれのある毛髪には、トリートメント巻きを行う。
- ③ 均一なウェーブを求める場合は、最初から最後まで一定のテンションでロッドを巻く。
- ④ ネープの部分は、上から見下ろしてスライスすると、スライス幅が狭くなりやすい。

H28・夏

問題 2 4 システインタイプのパーマネントウェーブに関する次の文章の（ ）内に入る語句の組合せのうち、正しいものはどれか。

「第1剤（1液）の主剤であるチオグリコール酸の代わりに（ A ）としてシステインを用いる。チオグリコール酸に比べ（ B ）が弱く、（ C ）も低いのが、毛髪の損傷修復などはたらきがある。」

A B C

- ① 還元剤 酸化力 還元力
- ② 還元剤 還元力 ウェーブ効率
- ③ 酸化剤 酸化力 ウェーブ効率
- ④ 酸化剤 還元力 還元力

H29・春

問題 2 5 パーマネントウェーブに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 第1剤は、パーマネントウェーブのかかりにくい部分から塗布する。
- ② 第1剤がどの程度毛髪に作用しているかを調べることをウェーブチェックという。
- ③ 中間リンスの目的は、第1剤を洗い流して、第2剤のはたらきを効果的にすることである。
- ④ 第2剤の酸化作用によりウェーブが固定される。

H29・夏

問題 2 6 パーマネントウェーブの施術上の留意事項に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 体質や現在の体調は聞く必要はないが、過去の薬剤を使用した施術の履歴は必ず確認する。
- b パーマネントウェーブの残存状態は、必ず乾いた髪で確認する。
- c 薬剤による施術で損傷のあるダメージヘアは、ダメージの程度と部分を確認する。
- d シャンプー時に毛髪の水分吸収度合いをチェックし、薬剤選定の目安とする。

① aとb ② bとc ③ cとd ④ aとd

H30・春

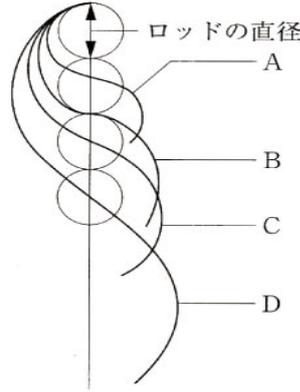
問題 2 7 パーマネントウェーブ施術前に行うカウンセリング等に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① これまでのパーマネントウェーブやヘアカラーの履歴を聞くことが必要である。
- ② 毛質や毛髪の状態を観察し、使用する薬剤や技術の選定基準にする。
- ③ パーマネントウェーブの残存状態は、毛髪が乾いた状態のほうが判断しやすい。
- ④ 体質や現在の体調を聞くことは、技術を決めたり、未然の事故防止のためにも重要である。

H31・前期

問題28 下図は、パーマントウェーブ技術のテストカールで見るウェーブの状態を表したものである。
適正カールに該当するものはどれか。

- ① A
- ② B
- ③ C
- ④ D



H31・後期

問題29 パーマントウェーブに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① かかりにくい新生部には、あらかじめ第1剤を塗布し、ワインディング後に再び第1剤を塗布するつけ巻き法を用いるとよい。
- ② パーマ剤で形成されるフルウェーブには、使用するロッドの3回転分の毛髪の長さが必要である。
- ③ 第1剤塗布後の放置タイムは、髪質によっても異なるがキャップをかぶせて10分前後を目安に様子を見るとよい。
- ④ 吸水性毛は、水分は吸収するが、薬液ははじくのでパーマントウェーブはかかりにくい。

R2・前期

問題30 ワインディングのロッドの配列に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① ダウンスタイルは、後ろに強い方向性をつけてロッドを配列していく。
- ② リーゼントスタイルは、フロントを斜め前にワインディングし、サイドが斜め後方に流れるようにロッドを配列していく。
- ③ フォワードスタイルは、サイドから見ると斜め前方向に顔を包み込むようにロッドを配列していく。
- ④ リバーススタイルは、頭頂部を中心に下方にロッドを配列していく。

R2・後期

問題31 パーマントウェーブ技術に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① 根元の新生部は、毛先に比べパーマがかかりやすい。
- ② あらかじめ毛髪に第1剤を塗布し、ワインディング後に再び第1剤を塗布する方法を水巻きという。
- ③ かかりすぎるおそれのある毛髪には、つけ巻きが適している。
- ④ カラーリングや残存ウェーブがあるところには、状態に応じてトリートメント剤を塗布して第1剤の作用をセーブする。

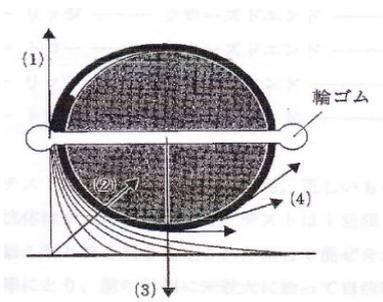
R3・前期

問題32 パーマントウェーブのテストカールに関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① テストカールにより第2剤がどの程度毛髪に作用しているかチェックする。
- ② テストカールは、ネープ最下部の細めのロッドで判断する。
- ③ ウェーブの大小は、ロッドの太さによって決まる。
- ④ タイム不足の場合、カール径がロッドの直径の2.5倍以下となる。

R3・後期

問題33 下図は、ワインディングのロッドにかかるさまざまな力を表したものである。
この図の中で、「髪につやと美しいウェーブをもたせるために毛束を引く力」を表しているものはどれか。



- 問題34 次のワインディングのスタイルのうち、サイドのスライスを縦に取り、後方に強い方向性をつける巻き方をしたものはどれか。
- ① ダウンスタイル
 - ② ツイストスタイル
 - ③ フォアードスタイル
 - ④ リーゼントスタイル

R4・前期

- 問題35 パーマネントウェービングに関する次の記述のうち、正しいものはどれか。
- ① フルウェーブを形成するのに必要な毛髪の長さは、使用するロッドの3回転分である。
 - ② ウェーブの大小は、第1剤塗布後の放置タイムによって決まる。
 - ③ 毛先は根元に比べ、パーマがかかりにくい。
 - ④ かかりにくい部分には、トリートメント巻きを用いるとよい。

R4・後期

- 問題36 パーマネントウェーブ技術に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。
- ① 中間リンスは、役割を終えた第2剤を洗い流すために行う。
 - ② ロッドアウト後のプレーンリンスは、ぬるま湯で手早く簡単にすませる。
 - ③ アフターリンスの目的の1つには、酸性成分を中和し毛髪を膨潤させるということがある。
 - ④ アフターリンスの目的の1つには、施術中に脱脂した油分をヘアトリートメントで補うということがある。